

巻頭言

IJCAI 2020 とグローバル化

伊藤 孝行
(名古屋工業大学)



IJCAI 2020 (International Joint Conference on Artificial Intelligence 2020) の開催候補地が7月のIJCAIの委員会にて名古屋に決定しました。本学会のIJCAI 2020 招致委員会委員長として昨年末から作業を始め、7月の理事会で報告致しました。6月から学会理事 (IJCAI 2020 招致担当) を拝命いただいておりますが、最低限の仕事は完了したのかもしれませんが、国内選定プロセスは公平を期すため日本政府観光局にご協力いただき日本各都市からビッドを集めました。6件のビッドを委員会で議論し、最終的に名古屋を選出しました。7月にNew Yorkで開催されたIJCAI 2016のExecutive Committee Meetingにて二度のプレゼンを行い、Executive Committeeの投票により正式に日本の名古屋が開催地として選出されました。久々に部屋にこもりプレゼンの練習をしました。Executive Committeeのメンバーによく知った顔がいたことも幸運でした。

IJCAIの名古屋開催は二度目です。またIJCAIを2回開催する都市は名古屋が世界で初めてのことです。IJCAIなどの大きな国際会議はなるべく同じ場所でやらないように地域を選定します。したがって、同じ都市で二度目というのは指摘点になると推測されました。そのためプレゼンの準備には名古屋コンベンションビューロや名古屋市の方々の多大なご協力により相当つくり込み、二度目という点を超える長所をアピールしました。筆者は尾張人で名古屋はよく知っていますが、今回は名古屋の歴史や産業・観光を一から学び直しました。おかげで観光名所やレストランも多く勉強できました。名古屋は日本の自動車産業や飛行機産業の中心であることを前面に押し出しました。特に日頃協力いただいている都市計画や建築の先生方と名古屋市のつながりの深さが助けになりました。

IJCAIには思い入れがあります。初めてのトップカンファレンスはIJCAI 97 (名古屋) だったからです。内容は修士論文をまとめたもので、エージェントが人間の代理でこのグループの意思決定を支援することを目指したシステムに関する論文 [Ito 97] でした。これに関連した面白い課題 (好みの構造化、決め方のメカニズム、エージェントの実装方法などなど) について継続的に研究を行い、現在はフィールド実験のアプローチも取り入れJST CRESTのプロジェクトになっています。当時はIJCAIという国際会議の歴史も意義もそれほど理解してはいたわけではありません。ただ、同じセッションの発表者が超一流の先生方であることはプログラムから理解できました。せっかくいただいたチャンスでしたから、プレゼンではできる限りしっかり準備しました。8月の暑い最中に研究室に一人出てきて練習を毎日毎日積み重ねました。自分のプレゼンを録画するのが効果的でした。多くの人はIJCAI 97の運営に協力しており、研究室には誰もいなかったことを覚えています。発表自体は思った以上に好評でした。ただ、質問の一つが聞き取れず悔しかったのを思い出します。

IJCAI 97での経験から、博士課程ではやはり「常に世界を見て」研究や仕事を進めようと思いました。何でもかんでもグローバル化すればよいわけではないのですが、英語で (逃げずに) 議論できるようにすることは、人生を100倍楽しくするでしょう。日本では自分一人しか興味がないようなコトでも世界中を探せば真に興味のある人達を10名は集められます。最近では世界を見て研究する重要性が理解され、ますますグローバルな視点で研究や仕事を進められる状況になっています。例えば、現在、名古屋工業大学と豪州ウロンゴン大学とのJoint PhD Program (共同博士号) の設立に向け仕事をしています。16年前、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究センターで、まだ若手だったMinjie Zhang先生を快く招聘させていただきました。その後、Zhang先生とは共同研究を始め、国際会議やワークショップも積極的に行っています。双方の教え子や協力者が同じように増えており、彼らがさらに相乗効果でネットワークを広げています。上の共同博士号はそのような16年の研究交流の継続で実現しようとしています。

IJCAI 2020が開催される2020年には東京オリンピックも開催されます。AI技術に関しても多くの産業応用の実現が大幅に加速されることが予想されます。産業応用を中心としたさまざまな取組みの最先端の成果の共有の場所としてIJCAI 2020を盛り上げることができればと思います。さらには、子供や一般市民にも大きく開かれた国際会議として展開したいと思っています。皆様のご協力を心からお願いさせていただきたく思います。

◇ 参 考 文 献 ◇

[Ito 97] Ito, T. and Shintani, T.: Persuasion among agents : An approach to implementing a group decision support system based on multi-agent negotiation, *Proc. 15th International Joint Conf. on Artificial Intelligence (IJCAI-97)*, pp. 592-597 (1997)